

当院で平成 26 年 1 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までに、冠動脈ステント内再狭窄に対し経皮的冠動脈カテーテル治療を受けた患者さんへ

—研究協力のお願—

当院では「ステント内再狭窄に対する薬剤溶出性バルーン^{1)の長期有効性及び安全性についての検討}」を実施しております。本研究はステント内再狭窄に対して薬剤溶出性バルーンによる治療を受けた患者さんを対象としてデータを収集し、治療成績などについて検討することを目的としています。研究目的・研究内容は下記のとおりです。

【研究目的】

冠動脈疾患において、ステントを用いた経皮的冠動脈カテーテル治療は、その有効性について広く知られています。しかし、ステント再狭窄と呼ばれる再度血管が狭くなる現象が一定の割合で存在し、それに対する治療法は十分には確立されていません。ステント再狭窄に対する薬剤溶出性バルーンによる治療は、従来型のバルーン拡張のみと比較し有効とされ、新たなステント留置を行わずに治療できる可能性があります。本研究では、これまでステント内再狭窄に対し薬剤溶出性バルーンによる治療を受けた患者さんの長期治療成績と、治療内容、画像所見などを再評価し、その有効性に影響を与える要因を検討することを目的としています。

本研究は東京医科歯科大学医学部附属病院を総括施設とし、関連病院施設と多施設共同研究を行います。

【研究の概要】

1. 本研究の対象となる患者さん

平成 26 年 1 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までに、ステント内再狭窄に対し薬剤溶出性バルーン（製品名：SeQuent® Please、製造販売元：株式会社グッドマン、ニプロ株式会社）による経皮的冠動脈カテーテル治療を受けた方

研究対象者の予定数：研究全体 200 例（当院 20 例）

2. 本研究の研究期間

平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで